

特集

# 「渋沢栄一とまちづくり」

11月12日に渋沢栄一記念館において、「渋沢栄一没後80年記念シンポジウム」が開催されました。日本を代表されるかたがたによる「渋沢栄一とまちづくり」についての討論が行われました。

今月は、渋沢翁の精神を市民の皆さんと顕彰し理解を深め、産業振興や将来を担う人材育成に役立てていただくため、熱い討論の模様をお伝えします。



㈱ドトールコーヒー 名誉会長 鳥羽 博道 氏

地元深谷市出身。㈱ドトールコーヒー創業者。コーヒー豆の焙煎加工卸業からスタートし、日本における喫茶革命を引き起こす。著書として『ドトールコーヒー「勝つか死ぬか」の創業記』がある。



埼玉県知事 上田 清司 氏

昭和51年新自由クラブ立党に参画。平成5年衆議院議員初当選後、3期連続当選。平成15年から現職。平成21年内閣総理大臣から地域主権戦略会議の構成員に指名される。



深谷市長 小島 進 氏

平成7年市議会議員初当選後、3期連続当選（平成16年第55代市議会議員）。その後、県議会議員を経て平成22年から現職。渋沢栄一の精神を生かした「まちづくり」を目指す。



東京商工会議所会頭 岡村 正 氏

昭和37年㈱東芝入社、取締役社長、取締役会長を経て、現在は相談役。平成19年から現職。国土審議会委員（会長）、中小企業政策審議会委員（会長）など政府関係の委員を歴任する。

## 今こそ渋沢栄一の精神を

**上田知事** 渋沢翁は県の最大の偉人です。県内の実業家は大きな影響を受けています。現在まで日本が強欲資本主義に走らなかったのは、渋沢翁の遺伝が、息づいているからではないでしょうか。アメリカでは個人の富豪が多く、反対に日本では、個人よりも企業が財産を持ち、社会に還元しています。渋沢翁は設立にかかわった企業を、自分の子孫に受け

継がせるのではなく、社会に戻しました。この精神により、国内では、極端な労働争議、極端な貧富の差が見られません。これは、世界でも珍しく、世界が日本を見習うべきところだと思います。

それが欠落しています。改めて仕事の意義を考えなければなりません。また、日本文化を深く理解した上で異文化に対応し、国際化を進めるべきと考えます。その要素をわれわれが体得して、社会観、職業観を子孫につなげ、一人ひとりが責任を持って行動すべきではないでしょうか。

の本当の偉さは、地位でも名誉でも財産でもなく、人を生かし人材を輩出する人が偉いというものでした。「損得が先ではない。何が正しいかが優先で、損得を判断せよ」この言葉は、全社員の手帳にも載せています。

**岡村会頭** 渋沢翁は、今の日本が一番必要としている人ではないでしょうか。渋沢翁は、本来の意味での国際化や働くことの価値観の理解を世に広めました。現代は

こつした、民間と行政の連携関係を学び、今、実践しています。

## 未来の世代・人材育成

**小島市長** 渋沢翁が亡くなられて今年で80年。一人の人物の存在で、このように多くのかたがたにお集まりいただき、改めてすごい人物だと感じています。渋沢翁の重視してきたことは、民が主体であり、あくまで官はサ

**上田知事** 渋沢翁は、企業を育て、大学など教育面から人材を育て、社会の格差をなくすために、福祉に力を入れるなどされました。その精神と慧眼に感心いたします。県でもその精神を受け継ぎ、中小企業への融資や、海外への留学支援など、特に弱い人・困ってい

る人に、チャンスを与え伸ばすことを目的に実施しています。海外への留学支援では、今年度は世界25か国へ260人もの若者を送り出します。この中から将来、大実業家やノーベル賞受賞者が出るかもしれません。また、創業希望者やベンチャー



▲熱い討論が交わされたパネルディスカッション  
 モデレーターは松本和明氏（長岡大学経済経営学部准教授／左）、問題提起をされた井上潤氏（渋沢栄一記念財団渋沢史料館長／右から2人目）、基調講演をされた島田昌利氏（文京学院大学経営学部教授／右）

企業への支援のために、『渋沢栄一ベンチャードリム賞』を創設し、創業・ベンチャー支援センターも開設しました。相談業務や金融機関との連携、アドバイザーチームの充実などを図っています。

**岡村会頭** 商工会議所では、全国共通の課題と各商工会議所が抱える個別の課題があります。全国共通の課題に対しては、長いディスカッションが必要です。例えば、TPP（環太平洋経済連携協定）をはじめとした経済連携を推進し、自由貿易を推し進めることが大原則です。しかし自由化により損害や影響を受ける産業、地域もあるため、ここをどうやってしっかり守っていくか時間をかけて話し合うことが必要です。

各商工会議所の個別の課題については、住民のかたの意見も取り入れ、行政や住民との連携による解決を目指しています。これらの活動を通じて社会的評価も高まっています。

**鳥羽会長** 私はコーヒーの製造・卸を仕事としておりますが、当初から将来的に大きな価格競争に立ち行かなくなると考えていました。そこで、まずもつかる仕組みをつくる。その上でロイヤル

ティーと原材料を買っていたら、それを提供する。「お客様にもつけていただき、その後結果的に自分ももつける」という形です。商売と同じで、まず売り上げが絶対に必要です。いくら経費を削減したところで、この日本の状況は救えない。国家戦略会議で、国の経済に精通した優秀な人々を集め、GDPの拡張に対してどうしたらよいか、徹底して話し合おう。一つの方向が決まったら、それに向かって総理大臣を先頭に、「1億火の玉」になって立ち向かう。この意気込みが、国の経済を成長させるのではないかと感じます。

**小島市長** 自治体経営も、もがき苦しんでいます。さまざまなおことにトライしています。その一つとして官民一体となり、医師確保の事業を始めました。それは、資金的に医大をあきらめる高校生を念頭に置き、奨学生を募集しました。返還不要の条件として、深谷赤十字病院へ一定期間の勤務をしていただくものです。

もう一つは、団塊の世代のかたがたを有効活用するシステムの構築です。高齢者をひとくくりにせず、渋沢翁の精神を受け継ぐまち

## 地域の活性化とまちづくり

として、「地域への貢献・恩返しをしたい」と思っかたがたに社会活動の場を確保してまいります。

また、農産物の生産・加工・流通・

販売・PRシステムのルール敷きを行政が担当し、これから花園インターを拠点に、農業を中心とした土地利用を進めていきます。

**上田知事** 日本の再生の鍵は、東京ではなく、日本の縮図である埼玉県にあります。

県の人口もわずかずつてますが増えており、県のGDP・個人所得も増えています。農業分野でも野菜・花が伸びています。また、私は県内の女性360万人の力に注目しています。女性の社会参加、働きやすい環境づくりを目指し、女性の力が原動力となり経済の好循環を生み出す取組を始めています。最後に健康長寿。健康がゆえに医療費が少ない例として、高齢化率が高いが医療費の少ない小鹿野町などを参考に、県の全国の番目の若さを生かし、持続的な成長が可能となるよう、対応していきたいと考えます。

かと考えました。そこで上がってきたのが、渋沢翁の唱えた「道徳経済合一説」です。これにのっとり、社会的責任を果たし、企業と社会を結びぎさずなることを『東商サミット宣言』として採択しました。

まちづくりは、「安全」・「安心」が原点です。行政と住民、商工会議所の3つが同じビジョンを共有し、そのビジョンに対してそれぞれが、



**岡村会頭** 商工会議所は平成20年に130周年を迎えました。その際、改めて会議所のDNAは、何



必要なら任務を果たしていく。それにより、素晴らしいまちづくりができるのではないかと感じます。

**鳥羽会長** キリシヤの財政問題など、昨今の欧米などの経済状況を見る中で、渋沢翁のシンプルな言葉「論語と算盤」の道徳経済合一説を私も同じく重みを感じます。「悪貨は良貨を駆逐する」という言葉がありますが、私の信念として、「真の良貨は悪には絶対に負けない、中途半端な良貨だから、駆逐されてしまう」と考えています。そして、まさにそれを実践したのが、渋沢翁ではないでしょうか。自身の初心を貫き、良貨を持った強い意志で、絶対に悪に負けず、変わらぬ先見性と強い良識・信念を持つ。私自身も、心してきたいと感じています。

**小島市長** 深谷といえは、中山道の宿場町のイメージですが、渋沢翁の誕生した時代には、利根川沿いの中瀬河岸が栄えていました。川を通じて江戸の文化や水戸学などの思想が伝わり、私塾も盛んで、経済的發展や情報集積地でありました。現在では川に当たるものが高速道路ではないでしょうか。深谷市には、県北の玄関口である



関越自動車道の花園インターチェンジがあります。これをまちづくりの拠点として、その活用を近隣の美里町・寄居町・秩父市と協働で、整備・発展の道を探っています。そして、その実現には行政の出費を押しさえ、無駄を省く中で、市の職員にはまさに「知恵を出そう、汗をかこう」と言っています。

また、自治体間の連携としては、渋沢翁が設立し、世界遺産を目指している富岡製糸場がある富岡市や、昨年の『全国ねぎサミット』が会いの新潟市など幅を広げています。生産者と消費者の、橋渡し役を務めるなど、行政はチャンネルをつくり、自主的に動き、厳しい時代を官民一体で乗り切っていきます。